道徳通信かがわ

第２７号
平成２９年１１月３０日（木）
香川県教育委員会事務局
義務教育課

「人はこうしてさ、ふらここ（※ぶらんこのこと）みたいに揺れながら生きている。正と邪の間をね、行ったり来たりしてるのさ。正しいことばかりできる人間もいないし、邪（よこしま）なだけの人間もまあ、めったといやしない。……そのいずれもが己自身だ」（朝井まかて『藪医ふらここ堂』より）

正しいことや理想を知っていても、なかなかその通りにはできないし、弱い心に負けてしまって道徳的ではない行動をしたこともある―。道徳科で大切にしている「人間理解」です。そして、この揺れ幅が大きいほど、人は人間についてより深く考えていくのではないでしょうか。

人間関係を基盤に　―総合授業カリーダー公開授業―

１１月２２日、高松市立香東中学校で総合授業カリーダーの公開授業が行われました。大北佳苗先生による、２年生の「美しい母の顔」の授業でした。資料のあらすじは、次のようなものでした。

> 久子の母は、右のほお一面がヤケドのため、大きくただれています。そのことを友達に知られたくない久子は、母に「学校には来ないでよ。」と言い続けます。そして、とうとうある日、忘れ物を学校に届けに来た母に対し、「そんなお化けみたいな顔で、いつまでもいないでよ！」と怒鳴ってしまいます。
>
> その夜、父は、久子に母のヤケドの理由を語り始めます。久子が１歳の時、隣家が燃えたこと。その時、母は久子をぬれた毛布で包み、身を挺して炎から守ってくれたこと―。それを聞いた久子は、母のひざに顔をうずめて泣きじゃくるのでした。

大北先生は、資料前半の久子の言動について、「あなたはどう思う？」と生徒に問いかけました。多くの生徒が、「お母さんがかわいそう。」「大切に育ててくれたのにあり得ない。」と、反論の立場をとりました。

そのような中、一人の女の子が、「久子に同感」の立場を示します。そして、一生懸命に自分の思いを説明しようとするのですが、うまく説明できません。すると、周りの友達は、「〇〇さんの言いたいことはどういうことかな。」と、何とかその女の子の気持ちを分かろうとし始めました。

この場面の久子の気持ちが分かるからこそ、最後の場面で涙を流す久子の気持ちにも強く共感できます。本時の学習を左右する大切な学習場面であり、それを支えたのが一人の女の子とその一人の思いを大切にしようとする友達でした。

道徳の授業での心の交流が学級の人間関係をより確かにし、その人間関係に支えられて、生徒は自分の感じ方や考え方を友達に伝えようとします。学級経営が、道徳の授業の基盤ということが伝わってくる授業でした。

【久子の気持ちに反対？ 共感？】